

区内にはほかに道灌の史跡や伝承地があるよ！

普段、何気なく歩いている街のいろいろな所に、道灌ゆかりの地があります。取材では、第一日暮里小学校5年生のジュニア記者たちが、野尻さんと一緒に日暮里を歩きました。三河島・南千住・尾久については、野尻さんのコラムで紹介しています。



太田道灌は、室町時代後期から戦国時代初期に活躍した武将で、江戸城を築城したことで知られています。道灌ゆかりの地がいくつも残るあらかわでは、身近な武将として地域の人々に親しまれてきました。さて、道灌とはどんな人物だったのでしょうか？ 野尻さんと一緒に道灌ゆかりの地を巡ってみましょう。

中谷 瑛亮くん

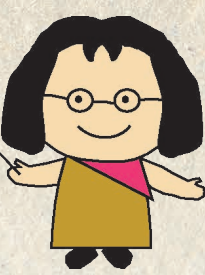


道灌の本名は「資長」と言われているけど、本名には諸説あるんだって



まだまだあるよ、道灌ゆかりの地

野尻 肇さん



今昔ものがたり「特別篇」

日暮里

日暮里で道灌が残した足跡をたどろう

本行寺

本行寺は、大永6年(1526)に建てられた日蓮宗のお寺です。道灌の孫・太田資高が江戸城内に建てた後、宝永6年(1709)に日暮里へ移りました。取材では、太田家の守護神として大切にされている「三十番神像」を特別に見学させていただきました。この像は1か月30日の間、毎日交代で守ってくださる30体の神像です。本行寺には、ほかに道灌にまつわる文化財がたくさんあります。

取材の前には、しっかりとごあいさつしました



「三十番神像」は、道灌が江戸城で大切にまつりしていた神像。普段は見学することができない貴重なものです



道灌について調べてみよう！



三河島

山吹の里伝説の娘は花の木の人

道灌の鷹狩場で番をしていた家臣が、三河島を開発したという伝説があります。また、山吹の里伝説に登場する道灌に山吹を捧げた娘は、三河島の花の木(荒川六丁目)という所に住んでいた豪族の娘だと伝えられています。和歌の達人で友人の木戸孝範らの邸宅があったとも言われているよ。



新撰東鑑「太田道灌初テ歌道ニ志ス図」(荒川ふるさと文化館蔵) 道灌に山吹を差し出した娘の姿を描いた絵です



花の木児童遊園(荒川六丁目)の案内板 山吹の里伝説を絵入りで紹介しています

南千住

石浜城と道灌

白鬚橋辺りには古代以来の渡し場があり、交通上・軍事上の重要な場所でした。隅田川沿いの石浜神社(南千住三丁目)付近には石浜城というお城があり、道灌は分家に追われ逃げた千葉氏本家の兄弟を援助し、兄の美胤を赤塚城(板橋区)の弟の自胤を石浜城に迎え入れました。



石浜神社と石浜城 石浜城は石浜神社付近にあったと言われています

尾久

石尊社と道灌の家臣

東尾久の石尊社には不思議な形をした石がまつられています。道灌の家臣・高木半人が夢のお告げでこの地を訪ねると、不思議な形の石を見つけまつり始めたと言われています。また、道灌の家臣の子孫が営んだという温泉旅館もありました。



石尊社(東尾久六丁目) ここには相模を取る鷹の昔話が伝わっています



道灌と荒川区のつながりが分かって面白いわね！

ジュニア記者が気付いたこと

佐野くん

道灌が鎧を着ている肖像画は見たことがあったけど、鷹狩りの姿は日暮里駅前の銅像で初めて知りました。もっと自分でも道灌のことを調べてみたいと思いました。

中谷くん

道灌山が描かれた浮世絵を見て、今は山の周りがコンクリートになっているので少しさびしく思いました。僕は近代史が好きだけど、道灌の歴史を学ぶのも楽しかったです。

【山吹の里伝説とは？】

鷹狩りの途中で雨に降られた道灌が民家に雨具の「蓑」を借り行くと、その家の少女は「蓑」ではなく山吹の花の枝を差し出しました。道灌は腹を立てて帰りますが、兼明親王の古歌「七重八重花は咲けども山吹の実のひとつになきぞ悲しき」に基づいて、蓑が無いのを「実のひとつになき」にかけていたものだったと知り、和歌の知識がなかった自分を恥ずかしく思います。この出来事がきっかけで道灌は和歌の勉強に励んだ、という伝説があります。

「日暮里道灌まつり」

道灌の魅力をより多くの人に知ってもらうため、平成30年度から日暮里駅前イベント広場で開催しています。道灌にゆかりのある団体の特産品などを販売したり、ステージショーなどを行います。



※令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大を防止するため、区ホームページでの各団体の紹介と区施設でのパネル展示に変更しました。

問合せ：観光振興課観光振興係 ☎内線461



佐野 太一くん